

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400124		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームさきしり		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字妙堂崎字崎尻44-1		
自己評価作成日	令和4年7月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>アットホームな雰囲気、自宅に居ると同じような気持ちで過ごせるよう支援しています。 また、あまり時間に拘束されることなく、ゆっくりした環境の中で、安定した気持ちで過ごせるよう支援していきたいと思えます。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年9月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鶴田町にあるホームだが、隣接する五所川原市やつがる市にも近く、病院や関係機関等にアクセスしやすい環境にある。また、ホームからは岩木山が見え、四季折々の景色を楽しむことができる他、周囲は田んぼに囲まれており、施設にいても稲の成長を見ながら季節を感じることができる環境にある。ホームは家庭的な雰囲気、食事は職員が献立を作成し、手作りで提供されているため、利用者の好みや地元の旬な食材が提供されている。 また、日常のサービス提供でも個別の支援を大事にし、利用者一人ひとりに応じた対応をするように配慮されている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示しています。利用者さんの個性を捉えることで、利用者さんの現状の生活が維持できるよう目標を定め、取り組んでいます。	ホーム内のみんなが見ることができる場所に理念が掲示されており、利用者・家族・職員が共有している。職員は折に触れて理念を意識するように管理者が率先して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元出身者の理容師を使用したり、訪問した他利用者さんのご家族様とも交流しています。それらを通じて、昔の地域の情報を得たりする事で、地域とのつながりを大切にするようにしています。	近隣に住宅がなく、町内会にも加入していないが、町の行事や祭りに参加し、地域との交流をしている。スイカの産地であるため、地域住民から差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、見学やボランティアの受け入れ等はしていないものの、認知症の相談は随時対応し、必要に応じて他介護事業者等に引き継いでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議のメンバーに資料を送付し、書面で行っています。ご意見やご質問等がある時は連絡していただき、業務に活かすようにしています。	2ヶ月に1回開催予定であるが、コロナ禍で運営推進会議が開催できず、書面による報告と意見を求める形式で実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には役場職員や地域包括支援センター職員にも参加していただき、その時に出た意見やアドバイスを参考にし、取り入れられるものは取り入れるようにしながら、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	運営推進会議に町役場、地域包括支援センターの職員が出席している。生活保護受給者について役場と連携する等、日常的に相談できる体制である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、不穏状態になった利用者さんがいた場合は、職員同士が声を掛け合い、見守りを強化しながら対応しています。施錠はしておらず、玄関や窓にベルを設置することで、開ければ分かるようにしながら対応しています。	玄関や居室の施錠はしておらず、日常的に身体拘束をしない支援を実践している。身体拘束防止委員会も定期的開催され、職員の研修も実施している。マニュアル、同意書、記録の様式も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、「虐待は絶対にしない」という認識をもって業務に従事し、虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて、成年後見制度について学んでおり、今後、利用したい利用者さんがいる場合は、関係機関と協力しながら支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書等を通してグループホームの説明をし、質問等がないか確認しています。質問があった場合はその都度、説明しています。退所時の内容についても、契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は、早目にお知らせし、説明する事でご理解いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と面会する時は、必ず利用者さんのホームでの様子を報告し、毎月、手紙にまとめてお渡ししています。その時に質問や要望がないか確認し、あった場合は、ご家族様と相談して決めています。その時の内容は職員同士で共有し合い、より良い介助ができるようにしています。	重要事項説明書の中に苦情の受付先が明記されており、契約時に説明している。基本的に利用料の支払いは家族持参になっている。ホームを訪問した時に要望等を聞くことになっており、出された要望や苦情について、管理者・職員が共有し、改善に向けて対応するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心掛け、勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を設けています。また、利用者さんと良い関係が築けている職員は、その関係を大事にしてケアに取り組んでもらっています。	定期的に職員会議を開催し、職員は意見を述べることができる。勤務についても職員は要望を言うことができ、働きやすい職場に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任や職員から適時、報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行ない、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境が作れるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月、勉強会を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境を作れるよう心がけています。資格取得等を積極的に支援し、職員の知識、技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に鶴田町の事業者で行われる勉強会に参加する事で、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時に、思いを引き出せるような聞き方をしたり、また、利用者さん同士の会話からも思いや要望を組み取って、他職員にも伝え、その思いに答えられるように努めています。また、安心して生活ができ、良い関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談があった時には、ご家族様にも必ず面会し、不安な事やご要望等を確認しながら、なるべくご希望に添えるよう努めています。また、対応が困難な場合は、他事業者と連携する事で、信頼関係が築けるよう意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿える様なプランを立てています。困難な時は職員からの意見も参考にし、対策を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	エプロンや新聞をたたむ等、利用者さんができる事は手伝ってもらっています。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、利用者さんが自分の存在感を感じてもらえるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細な事でも報告し、アドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるような関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、施設内での面会や外出もままなりません。施設に来所した際は、風除室のガラス越しに会話する等、短い時間でも馴染みの人との関係が途切れないよう支援しています。	コロナ禍で家族との外出や外食ができなくなったが、面会できる場所を作り、家族や地域の人と交流ができるよう取り組んでいる。自分で手紙を書いたり、電話ができる利用者はいなくなったが、家族からの電話には本人も出て話をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者さんがホールに出てきてテレビを見たり、会話をしたりし、音楽を聴いたりしながら一緒に過ごしています。レクリエーション活動では、得意、不得意がある為、お互いに手伝ったり、教え合ったりする事で、良好な関係が築けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが退所後もご家族様から連絡を受ける事はありますが、まだ相談や支援をする事には至っていません。相談等をされた場合は、フォローできるように努めたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望等があった際には、どのような内容を訴えているのか理解するよう努め、本人が満足する事を目標にして取り組んでいます。	職員全員で利用者を見守り、思いや要望を聞くように努めている。毎月カンファレンスがあり、利用者の状況をホーム全体で把握し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りをし、情報収集を行なっています。入所後もご家族様にホームでの様子を報告し、自宅に居た頃はどうか等、新たな情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄の時間等を記録し、毎日の生活リズムを把握できるようにしています。また、日々の介護から気付いた事や思った事について申し送りを行ない、話し合いをしながら、利用者さんの心身の状態を把握できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやアセスメントを行い、普段の様子から、本人のできる事とできない事を職員間で確認するようにしています。利用者さんやご家族様からの意向もその都度確認し、介護計画に反映させるようにしています。	介護計画は基本的に6か月ごとにモニタリングを行い、見直しをしている。状態の変化に応じて随時プランを変更する等、利用者や家族、関係機関からの情報を収集して、実態に合った介護計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見ても分かるように詳しく記録するように心がけています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の心身の状況に合わせて支援するようにしています。他機関のサービスも参考にしながら、取り入れる事ができるものがあれば、取り入れるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター主催の勉強会に参加する等しながら、地域と関係機関に情報の提供と協力をお願いしています。得た情報と、私達も地域にどのようなサービスがあるのか調べて、外部の方とのつながりを持つよう努めています。担当外の場合は、地域のケアマネジャーと連携を図るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんやご家族様の意向を尊重し、自宅に居た時と同じ病院に通っていることが多いため、かかりつけ医との連携が図られています。その他、受診が必要な場合は、ご家族様にも相談しながら病院を決め、受診結果を報告しています。	入所前の病院を継続して受診することもできる。認知症専門医や歯科、その他の病院も鶴田町に限らず、つがる市、五所川原市の病院へも通院しており、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの情報共有が図れるよう申し送り等を行い、看護師からの助言を参考にしながら、最適な受診が受けられるよう調整しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先の病院に情報提供を行ない、ご家族様も交えた治療方針の話し合いの場にも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入院時、利用者さんの状態が重症化した場合、状況によってはホームでの暮らしの継続が、困難である場合がある事も伝えていきます。ホームでの生活が困難と判断された場合は、次の受け入れ先の確保と、入所できるまでの支援を継続する事を説明しています。	入所時に、看取りは行っておらず、重度化や終末期の対応について本人・家族へ説明をし、同意を得ている。重度化した場合や終末期は、本人や家族が困らないように次の機関へつなぎ、安心できる対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を通して、定期的な手順の再確認等を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定しながら、年2回の避難訓練を行なっています。避難訓練後は水消火器を使った消火訓練も行っています。	定期的に設備点検をしている。また避難訓練を実施し、利用者と職員が参加している。火災のみならず、災害についても想定した訓練をしている。災害時に備えて、食糧や水、暖房機器、ポータブルガス等備蓄を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持って、馴れ馴れしくならないように、言葉遣いにも気をつけるようにしています。プライバシーに配慮した対応にも心掛けています。	利用者はさん付けで呼び、一人ひとりの個性をや思いを大事にし、職員一人ひとりがプライバシーに配慮し、守秘義務に留意し、業務を遂行するようにホーム全体で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問する際は、利用者さんの気持ちを引き出せるような声掛けをし、表情からも読み取るようにしています。日頃からコミュニケーションを図り、本心が言えるような環境づくりを心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのその日の希望に応じて、利用者さんがやりたい事を尊重するよう援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から利用者さんの好みで衣服を選んでもらう等、おしゃれができるよう支援しています。また、身だしなみをさりげなく整えたり、理容師さんに定期的に訪問してもらう等、普段から衛生管理の下で、清潔な状態で過ごせるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなが美味しく食べられるようなメニューを献立に盛り込み、下膳等の後片付けができる利用者さんには手伝ってもらうようにしています。	献立は1週間ごとに職員が作成し、買い出しも職員が行っている。利用者の好みに配慮し、季節の旬の食材を提供している。職員は食事中は席に着き、食事介助や見守りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックは毎回行ない、摂取量が少なく、状態が気になる場合は病院を受診し、医師に報告・相談しながら、指示を仰いでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しをしています。また、自力でできる利用者さんでも、歯磨き、うがいが終わった後、きちんと磨けたか確認しています。自力でできない利用者さんや、磨き残しがある利用者さんは、職員が口腔ケアの介助を行ない、口腔内の清潔が保持できるよう支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症の進行や病気の影響で、失禁が増えている利用者さんもありますが、失禁があっても定期的に声掛け、誘導し、トイレでの排泄を維持できるよう支援しています。	利用者個々の排泄記録があり、定時排泄やトイレでの排泄を促している。おむつの使用についてもカンファレンスで取り上げ、できるだけ使用しない方針で支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操を促し、水分も多めに摂ってもらうよう声掛けしながら便秘を予防しています。それでもなかなか排便のない時は、処方されている下剤を服用し、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日を柔軟に対応し、週2回は入浴できるように支援しています。拒否される利用者さんは、工夫しながら声掛けする事で、定期的に入浴する事ができており、清潔に過ごす事ができています。	基本的に週2回の入浴を実施している。入浴は個別で、同性介助を希望する場合は、同性職員が支援する等、本人の希望に合わせて入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんは起床時からホールへ出てきて、ホールで過ごしている事が多いですが、昼食後は体調の事も考慮し、体を休めてもらっています。就寝時間も一人ひとり違う為、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は、職員間で申し送りを行ない、利用者さんの様子に変化がないか観察しています。服薬についても、飲み忘れや飲み間違いがないか、二重に確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動、エプロンや新聞たたみ、ホール内のお手伝い等、本人ができる事を協力してもらいながら、気分転換が図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、外出の機会は減っているものの、普段であれば本人の意思を尊重しながら、身体的に無理がないかを判断し、花見や買い物支援等を計画的に行う事で、戸外に出かけられるよう支援しています。	コロナ禍で外出が制限されているが、通院で外出した時に買い物をしてくる等、できるだけ個別の要望に応え、外出できるように支援している。全体の外出については、利用者の希望を聞き、実施するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、一緒に買い物に出かける事も少なくなりましたが、小遣い程度のお金は施設で管理しており、本人の希望に応じておやつを買ってくる等、お小遣いの範囲で対応できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙を書いたりする利用者さんはいませんが、制作活動等を通して、ご家族様に気持ちを伝えられるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は、その時の季節が感じられるような飾りつけをしています。また、利用者さんの普段の様子を写したスナップ写真も掲示しています。ホール内に温湿度計を置き、風通しを良くし、快適な空間になるよう工夫しています。	季節を感じるような飾りつけを行い、ホームにいても四季を感じるように工夫している。館内は掃除が行き届き、温度や湿度の管理、音や日差しについても利用者が過ごしやすいように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファー席とテーブル席があり、殆どソファー席で過ごされています。動ける利用者さんは自由に移動し、介助が必要な利用者さんは、希望する場所に座ってもらい、利用者さんが思い思いに過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用した物を自由に居室へ持ち込めるよう促しています。どのような物が必要とされてくるか、状況に応じながらご家族様と相談し、取り組んでいます。	ホームへの持ち込みは自由で、在宅時に使用していた物を持って来てもらい、利用者個々の居室づくりをしている。持ち込みが少ない利用者は、職員と一緒に居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりが設置されており、安全に移動できるようにしています。また、自室前等に大きなプレートを下げ、目的の場所を間違えないよう工夫もしています。		